



各報道機関 様

KJ00489116

2025年7月15日

発信課	社会教育部 文化振興課
担当者	黒瀬 みゆき
連絡先	電話 直通25-7558/内線6335
	FAX 24-7011
	E-mail bunkashinko@city.asahikawa.hokkaido.jp

分類	イベント・行事 <input checked="" type="checkbox"/> 募集 <input type="checkbox"/> 契約・入札 <input type="checkbox"/> 会議・説明会 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/>
日程	令和7年7月18日 10時30分 ~ 令和7年9月28日 18時30分
発表項目 (行事名)	WOMEN'S EYES しなやかに生きる女性たちの視点 ―織田コレクションより―
概要 (趣旨・日時・ 場所・内容等を 記入すること。)	<p>椅子研究家の織田憲嗣氏が長年にわたり収集・研究してきた、20世紀の北欧を中心とする椅子や家具、日用品。その織田コレクションを、毎年2回、中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館ステーションギャラリーで展示するようになり、今年で8年目を迎えます。</p> <p>今回は、「WOMEN'S EYES しなやかに生きる女性たちの視点―織田コレクションより―」と題し、女性ならではの感性で日々の暮らしに寄り添うデザインを生み出してきた、女性デザイナーにスポットを当てた名作デザインをご紹介します。</p> <p>ヨーロッパで産業革命がおこり、新たな近代デザインの思想が誕生した20世紀初頭、女性の社会的な自立が難しい時代の中でも、生活者の視点から、心地よく、使いやすく、美しく、人や社会を育てる力に満ちた作品を生み出してきたしなやかな女性たちの作品を、当時の時代背景にも思いを馳せながら是非ご覧ください。</p> <p>日時 7月18日(金)～9月28日(日) 10時30分～18時30分(入館は18時15分まで) 場所 中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館ステーションギャラリー (宮下通8丁目3番1号 JR旭川駅東口) その他 無料。9月は月曜休館(7・8月は無休)</p>
添付資料	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
報道(取材)に当たってのお願い	
備考	入館は18時15分までです。 展示した椅子には触れたり腰掛けたりできません。

WOMEN'S EYES

入場無料
free
admission

しなやかに生きる女性たちの視点

織田コレクションより

2025

7.18 fri → 9.28 sun

10:30-18:30 (入館は18:15まで)

月曜休館(月曜日が祝日の場合は翌日)、年末年始(ただし、7-8月は無休)

会場: 中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館
ステーションギャラリー

旭川市宮下通8丁目3番1号 / JR旭川駅東口(JR旭川駅コンコース)
Tel.0166-46-6277

主催:  旭川市教育委員会

主管: 旭川家具工業協同組合

協力: 織田憲嗣、織田コレクション協力会、東川町

ODA COLLECTION

odacollection.jp

ODA COLLECTION

odacollection.jp



WOMEN'S EYES

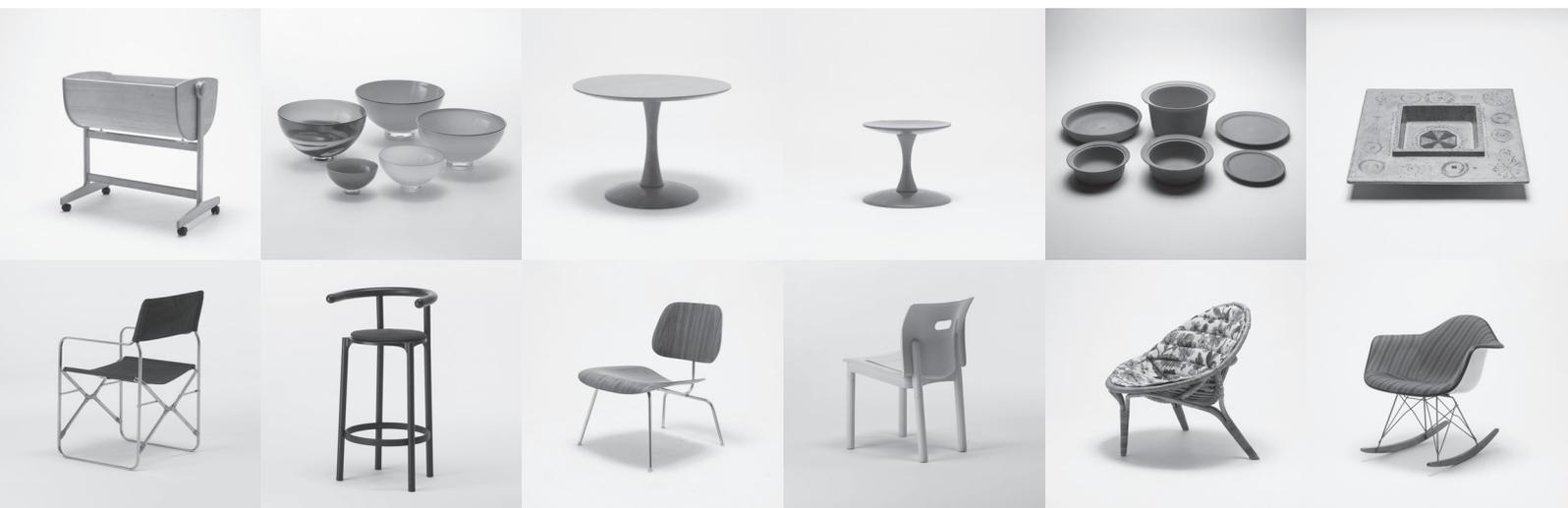
しなやかに生きる女性たちの視点

織田コレクションより

ヨーロッパで産業革命がおこり、新たな近代デザインの思想が誕生した20世紀初頭は、女性が社会に進出をはじめた時期でもあります。女性参政権獲得への動きや、アメリカでの「女性平和党 (Woman's Peace Party)」の運動、「バウハウス」が男女平等の理念を打ち出すなど、世界各国で女性が自らの意思で動き始めていました。

モダンデザインにおいても、女性デザイナーの活躍の場が国際的に広がり、彼女たちは、女性ならではの感性で日々の暮らしに寄り添うデザインを生み出しました。それは、生活者の視点に立ち、心地よく、使いやすく、美しいものであり、人や社会を育てる力に満ちたものでした。

このたびの展示では、織田コレクションより、女性デザイナーにスポットを当てた名作デザインをご紹介します。



織田コレクションとは

椅子研究家の織田憲嗣氏が長年かけて収集、研究してきた、20世紀のすぐれたデザインの家具と日用品群。その種類は北欧を中心とした椅子やテーブルから照明、食器やカトラリー、木製のおもちゃまで多岐にわたり、さらに写真や図面、文献などの資料を含め系統立てて集積されており、近代デザイン史の変遷を俯瞰できる学術的にも極めて貴重な資料です。その稀少性と研究実績が世界的にも高く評価され、各国から展覧会への協力要請が相次いでいます。

